

特定疾患治療研究事業データによる 亜急性硬化性全脳炎(SSPE)発生状況の把握

研究分担者： 国立感染症研究所感染症情報センター 多田有希

2012年までに麻疹排除
することが国家目標として
設定されている。



SSPEは麻疹の罹患により発生
する疾患であり、麻疹患者数に
終わらず、その後SSPE発生の
なくなることの確認が重要

難治性疾患である。



診療・療養に役立つ疫学状況、
臨床情報などを把握が重要

現状は、小児慢性特定疾患治療研究事業及び特定疾患治療研究事業の対象として、情報把握が可能。しかし、申請者に限るものであること、また情報の欠落や、折角の情報の分散により、発生数を含め、必要な情報の把握が不十分な状況。

国レベルでの一貫したサーベイランス制度の確立が必要

SSPE発生状況を正確に把握できる制度確立の必要性を説くためにも、今年度は本研究の岡分担班によりアンケート調査を実施。